

中央学院大学 学 報

CHUO GAKUIN UNIVERSITY

CAMPUS PRESS **120**

2015 SEPTEMBER VOL.

「建学の精神」— 公正な社会観・倫理観の涵養 —

特集

中央学院大学 創立50周年まであと一年!!

第2弾 学内イベントをふり返る

2015 ユニバーシアード競技大会報告



中央学院大学は
2016年に
創立50周年を迎えます

特集

中央学院大学 創立50周年まであと一年!!

第2弾 学内イベントをふり返る

本学は1966年に誕生して50年。お馴染みの学内イベントも、今と昔はこんなに違ってました。



体育祭



第1回体育祭ポスター



校門を出て、利根川堤防へ



ランニングは長蛇の列(1985年頃)



今年の体育祭



1968(昭和43)年にクロスカントリー大会が開催され、それが発展した形で1974(昭和49)年に「体育祭」がはじまりました。当時は、赤・白・緑・青・桃のチームに分かれ対抗戦で行われていました。学生と教職員が同時に参加できるように工夫された形は、現在の体育祭でも引き継がれています。

1、2年生の時、体育の授業の一環として行われたクロスカントリー。10キロの農道を周りの景色など見る余裕もなくひた走りました。

山田 壽一教授
1973年商学部卒
商学部教員



あびこ祭

[大学祭]



第1回大学祭ポスター



第1回大学祭パレード



一世を風靡した音楽グループによるパフォーマンス(1987年)



2014年のあびこ祭



大学行事最古の歴史を誇るあびこ祭(大学祭)。第1回目は1967(昭和42)年に開催されましたが、予算も少なく高校の文化祭の規模でした。大学祭と呼ぶにふさわしい行事となったのは、1969(昭和44)年11月の第3回目から。



模擬店(1992年頃)



入学して初の大学祭でのライブは浜田麻里。体育館は立見までの満員で「これが大学祭」と実感したことを覚えています。

浅海 優子さん
1993年商学部卒
本学事務職員

駅伝大会

オープン形式で、高校・大学・一般(社会人・女子)へ広く参加を呼び掛けて行っていた。



1970(昭和45)年に我孫子市制施行記念として、駅伝大会が始まりました。第1回から第3回は筑波(筑波山)～我孫子(中央学院大学)間のコースでしたが、第4回からは成田(成田山新勝寺)～我孫子(中央学院大学)間がコースでした。1989年頃からは「手賀沼一周駅伝大会」に変更しましたが、交通事情の関係で現在では休止となっています。

ランニング短パンにまじって、柔剣道着。はたまたステージ衣装、文化系学生も参加した、ユーモア一杯な駅伝大会。昭和の時代を感じます。

三輪 博文さん
1988年商学部卒
本学事務職員



中央学院大学山岳部の谷川岳追悼登山

教

職員・学生の皆さんの世代交代もかなり進みましたので、本学山岳部(現・廃部)による上越国境・谷川岳への追悼登山について、簡単に報告申し上げておきたいと思います。

山岳部で合議されたこの毎年恒例の谷川岳追悼登山は、遠く一九七三年の十月下旬に始まりました。その切っ掛けとなったのは、前年初冬の七二年十一月二日、猛吹雪の谷川岳西黒尾根最上部附近で下山途中の三名の登山者が相次いで疲労凍死するという、痛ましい遭難事故が発生したことになりました。この三名のなかに本学山岳部一年生部員のK君が含まれていたのです。こうして、K君の無念の死を悼み冥福を祈るための追悼登山が、毎年恒例のものとしてK君の命日直前の十月下旬に行われることになったのです。

追悼登山隊は、山岳部員に顧問部長を加えた六〜七名で編成され、谷川岳の二ヶ所の地点に向かいます。

まずはじめに、麓の登山道近くに建立された半円形の横に長大な石碑の前に詣で、刻印されたK君の氏名の前に持参した献香・献花・供物を供え、隊員一同の一斉黙祷を捧げます。

ついで登山隊は、遭難現場へと向かいます。遭難現場は、登りの取付きで峻険・長大な岩稜帯の直登を要する天神尾根を登高し、西黒尾根最上部に突出する巨大な岩峯のザンゲ岩に合流して、そこから西黒尾根を約一〇〇メートル前後下った地点にあります。そこには、墓碑代りに登山道脇の岩石を拾い集めて積み上げた小ケルンがあり、ここに



名誉教授 松本 重一

詣でて、麓の石碑前と同じく持参した献香・献花・供物を供え、隊員一同の一斉黙祷を捧げるのです。

このあと登山隊は、しばらく休息の後、帰途の時間的制約もあるため、早々に慎重を要するもと来た天神尾根の下山へ向います。

こうして行われる追悼登山は、その後山岳部として先輩から後輩へと連綿として受け継がれ、驚くべきことに二〇〇三年の顧問部長の現役引退までの三十年間続行されることになりました。

山岳界でも類例のないこの追悼の祈りの姿勢は、知る人ぞ知る多くの人々に深い感銘の念を呼び起こすことになったのです。

しかしこの追悼登山は、この時点で終止符を打たれたわけではありませんでした。山岳部は、その後ほどなく廃部されましたが、追悼登山そのものは、顧問部長の引退年

次からは顧問部長自身のみによる「単独行」として引継がれ続行されて、現在までにさらに十年余を重ねることになりました。また多忙な社会人となった山岳部OB達のなかにも、時間的調整が可能となった者が、時折、追悼の谷川岳に向向くことになりました。

このようにこの追悼登山は、関係者の体力、気力の続く限りひたすら続行されて行くのではないかと、思われまします。しかしまた一方では、追悼登山がいずれか一つのピリオドを迎えることになることすば、K君の死後五十回忌の年次がその節目になるのでは、ないかとも思われるのです。



不動産権利をめぐる判例研究

宇都宮 充夫 著/成文堂

本書は、私がこの20年ほどの間に中央学院大学法学論叢に発表した12件の判例研究を集大成したものである。付録に掲載した1件を除けば、残り11件は、すべて不動産権利をめぐる諸問題に関する平成の最高裁判例を対象とした研究である。各判例では、それぞれ一体何が具体的に問題となったのであろうか。その問題に対する最高裁の判断は、果たして当を得たものであるといえるであろうか。それらの問題点を詳細に検討したものである。



教員新作著書のご紹介

今年1月から出版された書籍を紹介します



税務会計論

濱沖 典之 編著/五絃舎

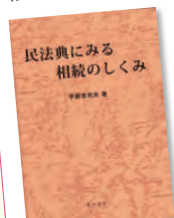
本書は、編者の税務会計実務経験と経済学・財政学・経営学・税法及び簿記会計の研究を通して得た知見とを組み合わせ、社会科学としての「税務会計論」に対する考え方を、全くオリジナルな視点で論究した書である。趣旨は社会科学の存在意義は社会現象を説明するところとあり、ここに教育上の有用性を見出せるとするものである。「税務会計論」のフレームワーク及び個別税務会計を説明する内容であるため教科書としても使用できる。



民法典にみる相続のしくみ

宇都宮 充夫 著/松井書店

相続とは、ある人が亡くなった場合に、その者(被相続人)と一定の親族関係にある者(相続人)が、その者の財産上の権利義務を法律上当然に承継することである。本書では「民法典にみる相続のしくみ」というテーマのもと簡潔にわかりやすく解説した。その内容は、相続人、相続分、遺産の分割、相続の承認と放棄、相続人の不存在、遺言、遺留分等であるが、具体的な事例を挙げながら、その解釈と判例を重視したものである。



境界から世界を見る

川久保 文紀 翻訳/岩波書店

境界(ボーダー)をキーワードにして、社会や国家を分析するボーダースタディーズの入門書の初邦訳です。領土問題を想起させるハードな境界としての国境ばかりではなく、私たちの日常生活やアイデンティティなどに見られるソフトな境界も視野に収めながら、人間は境界を引く「地理的存在」であることを実感させてくれる本です。地球温暖化、感染症、テロなどの国境を越える多様な脅威が深刻化しつつある今日、本訳書は境界の織り成す複合的な世界を冷静に観察する見取り図を提供してくれると思います。



貧困の倫理学

馬淵 浩二 著/平凡社

世界には極度の貧困に苦しむ人々が多数います。そうした貧困を放置してもよいと考える人は少ないでしょう。それならば、貧困問題の解決は義務であるといえるのでしょうか。それとも、一人ひとりの善意にまかせてよい問題なのでしょうか。本書は、貧困に苦しむ人々への援助が義務であると考えます。しかし、なぜ義務だといえるのでしょうか。この問いに答えてくれる倫理学や政治哲学の代表的な6つの立場が、本書では紹介されます。



2015 ユニバーシアード 競技大会報告

期間:2015年7月3日(金)~14日(火)
場所:韓国・クワンジュ(光州)



ゴルフ女子日本代表

本学ゴルフ部の金澤志奈選手(商学部2年)と丹野寧々選手(商学部2年)は、2015年7月3日(金)から14日(火)まで韓国・光州で開催された第28回ユニバーシアード競技大会において、日本代表として出場したゴルフ女子団体が総合2位となり、チームメイトの井上りこ選手(大手前大学4年)とともに見事銀メダルを獲得しました。さらに、金澤選手は個人でも2位の成績を修め、銀メダルを獲得しました。ユニバーシアード競技大会でのメダルは、1966年開学以来、本学にとって初めての快挙です。また、陸上競技に出場した駅伝部主将の濱滝大記選手は、10000m決勝において9位、5000m決勝において6位入賞という成績でした。最終学年で初めて挑んだ海外遠征での国際大会でしたが、この経験を糧にさらなる飛躍が期待されます。

中央学院大学 法学部創設30周年 記念式典

日時:平成27年11月4日(水) 13:30 ~ 16:00

場所:中央学院大学30周年記念館(6号館) 1階 611小講堂

講演

「中央学院大学法学部の現状と展望」

講演者 大村 芳昭(法学部長・教授)

卒業生
座談会

パネル・
ディスカッション

「4名の公務員から聞く これまでの足跡と提言」

コーディネーター:平澤 修(法学部教授)

星 高文氏(警視庁総務部企画課(警部)1989年3月卒)

志賀 一雄氏(東京簡易裁判所(書記官)1992年3月卒)

稲葉 悠野氏(旧姓:平田)(取手市消防本部(消防士長)2002年3月卒)

和田 彰氏(国税庁麹町税務署(国税専門官)2008年3月卒)

※詳細は、本学ホームページをご覧ください。

主催:中央学院大学 法学部創設30周年記念事業実施委員会

駅伝部「学生三大駅伝」出場!!

6月20日(土)に行われた「第47回全日本大学駅伝対校選手権大会関東学連推薦校選考会」において、本学駅伝部は総合1位となり、本大会への出場が決定(3年連続9回目)しました。

これにより、本年度は「学生三大駅伝」のすべてに出場します。

熱いご声援を、よろしくお願いします。

10月12日(月・祝)	第27回 出雲全日本大学駅伝選抜競走	島根県出雲市
11月1日(日)	第47回 全日本大学駅伝対校選手権大会	愛知県熱田神宮 ~三重県伊勢神宮
1月2日(土)・3日(日)	第92回 東京箱根間往復大学駅伝競走	東京都大手町 ~神奈川県箱根芦ノ湖

平成27年度 学年暦 (9月~ 11月)

アカデミックアドバイザーとの懇談(商学部2年生)/ 秋セメスター 商学部2年生ガイダンス	9月16日(水)
秋セメスター 商学部 1年生ガイダンス	9月17日(木)
秋セメスター 商学部3・4年生ガイダンス	9月18日(金)
秋セメスター(後期)授業開始	9月25日(金)
春セメスター 卒業式(商学部・大学院)	9月30日(水)
秋セメスター 履修登録(商学部)	10月2日(金):商4年・商3年 5日(月):商2年・6日(火):商1年
※祝日等の授業実施日	10月12日(月)体育の日
大学祭(あびこ祭)	10月23日(金)~10月25日(日) ●授業なし
補 講(6時限目)	11月2日(月)~11月6日(金)
※祝日等の授業実施日	11月3日(火)文化の日
※祝日等の授業実施日	11月23日(月)勤労感謝の日

※祝日等の授業実施日・・・祝日ですが、授業を実施します。

楽しいイベントが盛りだくさん!

学生や大学関係者だけではなく、地域の方々やご父母の皆様も、ぜひご来場ください。

あびこ祭2015

検索

2015 あびこ祭テーマ 「Happiness」

「地域全体が活気や笑顔に溢れるように。あびこ祭に訪れたすべての方に「幸福感・満足感」を与えられるように。」という願いを込めて今年のテーマに掲げました。



2014年度 長春工業大学 交換留学生(大学院)修了式

2015年8月4日(水)、本学において「2014年度長春工業大学交換留学生(大学院)修了式」が行われ、長春工業大学からの交換留学生3名(来日期間1年)に、佐藤学長から修了書が授与されました。



ロ デン エン アナン オウ カイ
呂 田 さん 苑 亜楠さん 汪 海さん



表紙写真 撮影: 高橋 幸雅さん(商学部4年・写真部)

学報について、ぜひ皆さまの
ご意見・ご感想をお寄せください。

宛先 企画課 ✉ gakuho@cgu.ac.jp